



# TVC株式会社



会社名：TVC株式会社

業種：工業用ゴム製品製造

場所：〒683-0362

鳥取県西伯郡南部町原938番地2

## 会社概要

NOK株式会社の子会社であり、平成元年に防振防音ゴム装置の製造拠点として設立。特にトーションダンパーは、国産自動車メーカーの60%のシェアを持っている。従業員を「人財」として大切に、育成に力を入れている。2016年と2017年には新しい工場を2つ建設し、生産規模をさらに拡大している。



会社HP：<https://www.t-vc.jp/recruit/>

Facebook



X(旧Twitter)



【企業をひとことで(誰に向けて・何を提供している会社か)】

誰に?：主に国内の自動車メーカーに向けて

何を?：世界トップレベルの防振ゴム製品を通して、クルマの安全と快適さを提供している

## 経営者インタビュー

【経歴】

平成元年に親会社である NOK 株式会社に入社し、福島や東京、そして中国の支社で仕事をしていました。そして、今年(令和5年)4月に弊社の代表取締役社長に就任しました。入社当初は生産管理部門に配属され、他の部門とやり取りをしながら製品の生産計画を実行するという仕事をしていました。

【仕事または経営で大事にしていること】

「共感」を大事にしています。トップが決めたことを一方的に押し付けるのではなく、社員一人ひとりが理解・共感することが、同じ目標に向かって社員が自律的に行動するための第一歩になると思っています。そのため、親会社の理念をベースに TVC としての企業理念を考え、内容そのものの議論に時間をかけたことはもちろん、社員に共感を抱いてもらえるような伝え方やタイミングにも気を配りました。例えば、各部署の課長を集め、スローガンについてどう思うか、またその実現に向けて自分はどう動いていくかの宣言をしてもらい、そこから各部署に持ち帰って他の従業員にも広めるという方法を取りました。普段の業務においても、いかに従業員の心理的安全性を確保するか、互いに意見を言いやすい環境を作れるかということを意識しています。



役職：代表取締役社長

鷲尾雅文さん

【企業の強み】

まず一つは、700名を超えるたくさんの従業員がいることです。従業員とその家族は、会社と地域社会とを繋げてくれる大切な存在だと考えています。さらに、親会社(NOK株式会社)の規模が大きいので、様々な新しいことに挑戦できるという良さもあります。また、地元の行政機関ともいい関係を築いており、工場がある南部町からは経済的な支援や駐車場の提供など、大変ありがたい協力をいただいています。



【お仕事のやりがいを教えてください】

日々の仕事そのものがやりがいです。若い頃からどんな仕事をやっても常にやりがいを感じてきた気がします。ただ、それは決して仕事に盲目というわけではなくて、むしろ、いつでも会社を離れることができるような選択肢を持っておくことを大事にしていました。会社と対等な関係でいることによって、自由にものを考えたり発言したりすることができると思っています。選択肢を増やすためにはキャリアにつながる資格を持っておくことと安心ですし、それをモチベーションに勉強への意欲が湧いてくるということもあります。

【『ワークライフバランス』についてどうお考えですか?】

私自身は「仕事とプライベートどちらも大事、仕事が終わったら早く帰る」という考えなのですが、一方で色々な考えを持った人がいます。そこは人それぞれの価値観を尊重すべきですが、どうしても上司が遅くまで働いていると部下は帰りづらくなってしまいます。心理的安全性を確保するためにも、従業員が「休みたい」と言いづらい環境は好ましくありません。だから、管理職こそプライベートを楽しむ姿を部下に見せていく必要があるのではないかと考え、それを促進できるように意識しています。

## 社員インタビュー



### 中原梨花子 さん

年齢：21歳  
所属：調達部調達管理課  
入社歴：入社2年目

#### ＼＼Ｑ 入社のきっかけ ＼＼

鳥取県出身で、大阪の専門学校で学んだのち、Ｕターンという形で TVC に就職しました。元々車が好きなこともあり、普段何気なく乗っている車がどのような部品を使ってどのような工程で作られるのかということにとっても興味が湧いて、TVC への入社を決めました。学校で英語を専攻していたこともあり、当初は物流や航空など英語を本格的に使う仕事を考えていました。しかし、就活を進めていく上で、「英語を使う仕事に就かないといけない」という固定観念に自分が縛られているような気がして、**本当にやりたいことは何か？**と立ち止まって考えてみました。そして、それが車だと気付きました。

#### ＼＼Ｑ 鳥取にＵターンした理由は何ですか？ ＼＼

大阪も楽しかったのですが、自分に合った環境で、自分の好きなことをするのが最も大事だと思い、大好きな地元に戻ってきました。**鳥取は都会に比べて自然がいっぱいで、人のあたたかさが身近に感じられる地域です。**だから鳥取の方が落ち着いて仕事ができるのではないかなと思いました。



#### ＼＼Ｑ 入社前と入社後のギャップ ＼＼

私は、入社するまでの間にアルバイトを経験したことがなく、初めて「働く」という経験をしたのがこの TVC だったため、「職場」や「働く」ことに対して、明確なイメージを持っていませんでした。そんな学生時代には、TVC に「従業員の皆さん優しいそうだな」という印象を持っていました。入社後もその印象は変わらなくて、社員のことを最優先に考えてくれるあたたかい会社だと感じています。

#### ＼＼Ｑ 仕事のやりがい ＼＼

**学生時代に身につけた英語力や部活動での経験が仕事に活かせたとき、最もやりがいを感じます。**

私が所属する調達部は、簡単に言えば「お買い物」をする部署です。製造に使う部品を購入し、製造部のみなさんにお渡しする仕事をしています。海外の取引先とやり取りすることもあり、その際に語学能力を活かすことができます。入社当初は英語を使った仕事をするのはもうないと思っていたので、本当にありがたいことです。その他にも、学生時代の部活で積み上げてきた団結力や連携力が、イレギュラーな対応が多い現在の業務に生かされているなど感じることもあります。**自分が何気なくやってきたことが確実に会社の役に立っているという実感を持てることは何よりも嬉しいですね。**

#### ＼＼Ｑ 学生へのアドバイス ＼＼

学生時代に様々な経験を積むことをお勧めします。特に、入社当初は電話の取り方やビジネスメールの書き方など、わからないことが多いものですが、例えば、アルバイトでこれらのスキルを身につけておけば、早く慣れることができるでしょう。学生時代に得た経験は、どんなに些細なことであっても、将来的に何かのタイミングで役立つはずです！

## 学生インタビュー



松原実里さん 農学部 生命環境農学科 2 年

鷺尾社長の心理的安全性についての言葉がとても印象に残っています。伝えたいことを伝えられる環境、タイミング、方法が大切であるということが心に響きました。大学の専攻とは違う分野であったため不安でしたが、車の部品の製造工程の工場に初めて入り、現場を見たことで企業理解が深まりました。たくさんのお話をありがとうございました。

林春那さん 農学部 生命環境農学科 1 年

TVC 株式会社を訪問した中で印象に残っているのが、鷺尾社長が仰っていた「共感してもらうことが大切」という言葉です。共感することは、上司や部下と信頼関係を築く上でもコミュニケーションが取りやすく、意見の衝突が少ない環境を作るためにも大切な事であると思いました。また、若手社員の中原さんがおっしゃっていた、「持っている力を活かせる職場」という言葉がとても心に残っています。私も将来は TVC の社員の方々のように、やりがいを見つけながら、楽しく仕事を続けていけたら良いなと感じました。

